

そよかぜ診療体験記

6月の一ヶ月間、そよかぜ診療所・はるかぜ診療所で研修させていただきました研修医の福井一弘です。研修を通じて感じたことなど記させていただきます。

まずは初日、何もわからないまま3時間かけて神戸から朝来までやって来て今日から住み込みで研修するのかと期待と不安が混じった思いでした。研修の内容としては採血、エコー、レントゲン撮影と普段行っている手技のレベルアップを行うとともに、訪問診療などへも新たに携わらせていただきました。最初は、先生方の後ろでエコー検査などの手技を見たり、訪問診療に連れて行っていただいたりという研修をさせていただきました。そして、徐々に私も検査を一緒に行わせていただくようになり、やがて検査や訪問診療などを一任されるよう成長することができました。

大学病院では、入院治療が必要な患者さんや救急外来を訪れた患者さんの診察を主にしておりましたが、実際に患者さんが退院後や普段どういった生活をされているのかという点に関しては漠然としたイメージしか持ち合わせていませんでした。この1か月間実際に朝来の皆さんの暮らしを見させていただいて入院中の病棟管理だけでなく、退院後の暮らしを考慮して診療を行うことの大切さについて学ばせていただきました。それとともに、診療所のスタッフ、ご家族の方々が少しでも患者様が過ごしやすいように創意工夫をされている姿を見て私自身も一医療者としてそのようにありたいと身の引き締まる思いでした。

診療時間終了後は、空手の道場に連れて行っていただいたり、スタッフの子供さんと一緒にお勉強したりとどこか大学時代の暮らしを彷彿とさせる生活を送らせていただきました。社会人として働き始め、日々の仕事の合間に忘れ去られていた習慣を取り戻すことができたように感じました。医療者として成長することが大切であるのと同様に医療とは別の面で他者と関わる機会の大切さに気付かせていただきました。

最終日、部屋の片づけをしてその日の診療を終えていくにしたがって名残惜しい気持ちが大きくなり、それと同様にどこか研修を終えた充実感を得ることができました。この一月の経験を活かして、神戸大学に戻ってからも診療に励んでいきたいと考えております。そよかぜ診療所・はるかぜ診療所の皆様、そして朝来市民の皆様、一月と短い期間ではありましたが大変お世話になりました。また、成長した姿で巡り合える機会が来ることを心待ちにしております。